



# おうちで出来るSDGs！ ～わたしの行動で世界が変わる？！～

「持続可能な開発目標 SDGs(エスディーズ)」は貧困や不平等、気候変動など世界の様々な課題を解決し、誰もが豊かさを感じられる平和な世界をつくろうというビジョンが掲げられています。今回は、私たちの普段の暮らしの中で2030年のゴールに向けたアクションにつなげることを目的に開催しました。

日時：2018年8月1日(水) 10:00～12:00

場所：東京都生協連会館

講師：藤本 亜子さん（一般社団法人 環境パートナーシップ会議 / JICA 環境分野ボランティア）

参加：生協職員、理事、活動リーダー 39名



SDGs の概要とポイントを話されたあと、JICA青年海外協力隊での環境教育ボランティアの活動紹介から、開発途上国の環境問題とSDGsの取り組みを話されました。

講師：藤本亜子さん

## ● 「安いお弁当」を例にその先を想像してみよう

安いお弁当が簡単に手に入る(食生活の便利化)、売れると野菜を大量生産して農業を効率化。そして、安い外国産食材を輸入したくさん売れるので仕事が忙しくなる…一見すると食生活が便利になり農業は効率化され、グローバルな社会でいいように感じるかもしれませんが、視点を変えてみると農薬の大量使用、生態系の破壊、国内農業の衰退、野菜の高騰などの課題に気づくことができます。図にはたった一個のお弁当がSDGsの複数の目標(課題)に繋がっていることが示されています。

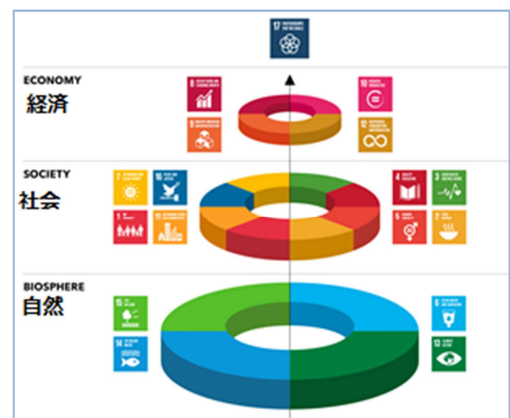


講師資料より抜粋

## ● SDGsを整理すると

「自然」がきちんと守られてこそ、「私たちのくらしや社会」が成り立ち、「私たちのくらしや社会」が成り立っているからこそ、「経済」活動が成り立つ。一番下の「自然」に関わる4つの目標が、その他の目標に関わる「社会と経済」を支えているということです。この順番が非常に重要です。1～17の目標を達成するためには、パートナーシップ(目標17)で促進する必要があります。

そして、社会を持続可能に変えるには「生産と消費」が大きく影響していることから、「目標達成における生協の役割は大きいです。」と講師藤本さんは仰いました。



SDGsのウェディングケーキ

講師資料より抜粋

## ●青年海外協力隊での活動 コスタリカ共和国

開発途上国においてごみは深刻な問題です。藤本さんは、コスタリカ共和国に「ごみの問題を解決するため」に派遣され、環境教育のボランティアとして学校や地域コミュニティでごみが引き起こす問題を伝えたり、ごみの分別や3R、コンポストなどの指導に携わりました。その取り組みを通じ地元のお母さん達や市の職員、木材を使うときには木の工場の人、地元企業など多くの方と繋がりができ環境教育をすすめることができました。振り返ると入口はごみの問題でしたが、環境教育のみならず消費者教育、貧困、ジェンダー、働きがいなどのSDGsの他の課題(目標)に繋がっていると気が付きました。これらの課題は一つの団体がどうにかしようとしてもできる事ではなく、何が起きているのが学び課題を見つけ、世界中が力を合わせ「誰もが豊かさを感じられるよう」行動しましょう。



講師資料より抜粋

## ●SDGsワークショップ

ワークショップは、一人の消費者として普段の「暮らし」について「気をつけていること(気になること・もっと良くしたいこと)」について、①自分にとっての豊かな暮らしって?②豊かな暮らしをサポートする生協の仕組みは?③SDGsとつなげてみよう!の順に書き出しグループで共有しました。最後にSDGs達成に向けた取り組みと、生協として出来ることを考え合いました。

### ～①、②ワーク抜粋～

普段の「暮らし」で気をつけていること、理想など書き出してみよう!

【食】 バランスよくおいしく食べる/できるだけ手作り/農業に頼らない/安全な食材

→すこしお、食育活動、産直、フェアトレード、地産地消、商品検査、フードドライブ

【エネルギー】 環境を壊さない/電気やガスの節約/原発に頼らない/省エネ家電

→各生協で取り組んでいる電力事業/エコ活動/省エネアドバイザー/リサイクル

【住まい(住宅、福祉など)】 地域とのつながり/たすけあい/帰りたいと思える場所

→たすけあい活動/配食事業/見守り/居場所づくり



### ～参加者アンケートより～

- SDGsの概念について整理ができた。安いお弁当を使った考え方、非常にわかりやすく自分の行動が他にどんな影響を及ぼしているのか考えながら生活したいと思う。
- 講座で学習しても理解を深めにくいSDGsでしたが本日のワークは大変身近な内容で私たちでも取り組むことができる、難しいことではないと改めて考え直すことができた。
- 昨年から何度か学習してきましたが今回が一番ストンと落ちた。生協にできることを考えるよいきっかけになった。
- 時間配分やワークショップの内容も適当で学習会を計画する時の参考になりました。
- (ワークショップ)は様々な生協や協同組合の人、生協をよく知らない人を交えるともっと学ぶこと、気づくことが多くなると思います。